

静岡ろうきん運営委員会 様

ろうきん運営委員の一人ひとりが役割・存在意義を再確認『知覚動考』の行動指針を浸透させ、自ら動く運営委員に。

静岡・志太榛原地域合同「交流集会」で、各支店の運営委員が一つのチームとなり、運営委員・運営委員会のあるべき姿と理想のろうきんの形を描くドリームマップセミナーを開催しました。ドリームマップを導入された静岡ろうきん清水支店の佐野一裕支店長と清水支店運営委員会の本杉弘一委員長にお話を伺いました。

◆ドリームマップセミナーを導入した目的は、運営委員が『知覚動考(ともかくごう！)』を実践するため

第2期中期計画「TRY」の2年目に当たる2016年度は、前年度の事業計画と実績を踏まえて分析・改善し、諸課題への取組みを進め次年度へ繋げていくための大事な期間。静岡ろうきんの運営委員会では『知覚動考(ともかくごう！)』をキーワードに掲げました。

働く人々に『静岡ろうきん』を真っ先に想起してもらうために、運営委員がどんな活動をすべきか、ろうきんにどんなサービスがあったらいいのか。まずは、運営委員が原点に立ち返り、ろうきんの良さや強みをよく理解し、自分たちが考えた理想の運営委員・運営委員会を考えてみる必要があると感じ、「チームでドリームマップを描く」という、今までにない形のセミナーにチャレンジしました。(談：佐野支店長)



清水支店長 佐野一裕様



■セミナー概要

参加者：57名
(運営委員37名・ろうきん職員20名)

【プログラム内容】

1. チーム・ドリームマップとは
2. 目標を達成するワン・ツー・スリーの法則
3. 目標を描く4つの視点
4. ろうきんの強みを知ろう
5. 各支店・運営委員会のビジョンを具体化しよう
6. 3年後のチーム・ドリームマップ(理想の姿を台紙へ)を描く
7. チームのドリームマップを発表
8. 1人ひとり行動宣言

◆「ドキッとするアイデアや要望」が満載の未来像、利用者の本音とニーズを聴くことができた貴重な時間

「ろうきんのコンビニ化」=企業内にろうきんATMの設置、土日24時間営業、身近で使い勝手の良いシステムの構築、学校法人ろうきん、オリンピックメインスポンサー…など、実現可能な新サービスから無理難題な要求だと思える理想の姿までありましたが、純粋な想いから表出されるアイデアはとても尊く、運営委員のろうきんに対する強い期待を感じました。発表に同席していたろうきん役員も利用者(お客様)の本音の声が聴けたと喜んでいました。描いたドリームマップの台紙は、ろうきん職員と運営委員が常に理想を意識できるよう、各支店の会議室などに貼っています。(談：佐野支店長)



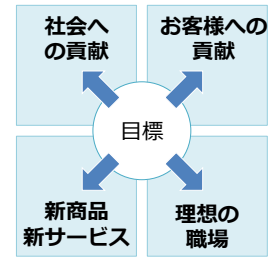
◆運営委員の経験年数、世代間を超え「ろうきん」の強みや未来像を共有！

今年度の運営委員交流集会は従来の意見交換・交流を兼ねた分散スタイルから支店ごとのグループワーク形式による行動スタイルを目指しました。企画から「るるキャリア」の内田美紀子さんに加わって頂いたおかげで、参加者からは「様々な角度から考え、支店の運営委員同志で共有できた、今までにない貴重な時間だった」と感想を頂き、幹事店としてホッとしています。従来の分散会では、これまでの活動や現在の取り組みを中心に成果や課題等を共有し、現状の問題解決に生かしていく受身型でした。運営委員自らが、支店の将来について考えイメージを共有し夢を追う行動スタイルではありませんでした。これまでの分散会では、現状の苦労や行き詰まり感によりネガティブになりがちな運営委員も今回の交流会では参加者全員がプラス思考でアイデアを出し合いドリームマップを完成させていきました。非現実的なアイデアも飛び出しますが、経験年数、世代間を超えた運営委員が夢を語りワクワクした会話は聴いていてもワクワク感一杯でした。ろうきんについてとことん深く考える場はとて有意義な時間となりました。夢を語り目標を持つことは、強み弱みを知ることでもあり運営委員自らの行動につながっていくものだ改めて確認できました。組合員の関心を組合につなげ止めておくためにも、運営委員自らの行動・労金運動が改めて求められていると思います。(談：本杉委員長)



清水支店運営委員会
運営委員長 本杉弘一様

■目標を描く4つの視点



講師：内田美紀子(るるキャリア代表
ドリームマップ普及協会静岡支部)